

R O J A K

IDEÉ
magazine
Vol. 0
¥ 900
定価

特集 いまのかたち

SURF IT ANYWAY!

クラウディオ・コルッチ

Claudio Colucci

マーク・ニューソン

Marc Newson

エマニュエル・バブレット

Emanuel Babled

ヤン・テサール

Jan Tesar

カリム・ラシッド

Karim Rashid

大竹伸朗+都築響一
ぬりどき日本列島

ロンドンのガーデニングはいま
地上にひとつの場所を

イタリアン・モダンの神
ジオ・ポンティ、お前は誰だ？

ヤンゴンからのレポート
アジアの消えゆく都市

バリアフリーを越えて
ユニヴァーサル・デザインで行こう！

ESSAYS

横研吾「絵葉書からブリクラへ」

中島誠之助「音楽通り物語」

島尾伸三「香りの港」



岡本太郎
という銀河系

EMANUEL BABLED

失われた時を求めて

エマニュエル・バブルードはミラノのヨーロピアン・インスティテュート・オブ・デザインでインダストリアル・デザインを学んだ。彼の才能は早くから見出され、卒業した年の1989年に国際コンペのイタリアズ・カップで1位を受賞。同年に行われたインダストリアル・デザインと装飾デザインの国際発表会、ミラノ・トリエンナーレで彼の受賞作品が紹介され、一躍世界に名前を広めることになった。以後、ミラノ、パリ、ロンドンなどで家具や花器、照明などのプロダクト・デザインを手がけている。

Photograph/Carlo LAVATORI



EOLIA



EMANUEL BABLED FOR IDÉE VASE

バブレッドは、パリやロンドンなどでも制作をしているが、主な活動基盤はミラノに置いている。もともとフランス人である彼を引きつけるミラノの魅力とは何だろうか。

「職人工芸の発達したイタリア、ミラノを選ぶのは私にとっては当たり前のことにしか思えません。ミラノはデザイン分野の最も重要な都市の一つだし、小さい街の中に店やショールームなど、さまざまなものが集中し、よいデザインはそこかしこにある。街にチャンスがごろごろと転がっているのがミラノだと思います。

また、ミラノは商業の場であると同時に、生産の場。プロジェクト一つ一つの裏側にある人間の関わりというの是非常に魅力的です。例えば、茶色のガラスでできたオブジェがあるとしましょう。美しいカーブを描き、クロームのような光沢を持ち、完璧に均整の取れた形を作っている。これは単純に技術があるからできるということではないのです。

オブジェを形作るガラス職人、それを手助けするアシスタントの単純だが正確な作業、昼夜を通して燃え続ける窯、仕事場を守る伝統。技術と同時に、これらの存在なくしてはオブジェは完成しません。プロジェクト成功のためには、これらが必要不可欠な基盤としてあり、デザインというのは、その膨大な過程における最後の付け足し部分でしかないのです。もちろん、完成了作品にシールを貼るような作業がデザイナーの仕事だとは思っていません。私は、デザイナーとして、これらの過程の基礎から見守っています。

実際、私の制作の栄養源はここにあるのです。こういった手工業的、人間的な部分が、自分自身のエネルギーや動機付けに繋がります。」

彼の作品の中でも、最も強いキャラクター性を發揮しているのがガラス製品。彼が作るガラスの花瓶は、うねるようなシェイプ、力強い色のコントラストを見せ、空間に大きな存在感、生命感をもたらしてくれる。これらは、ペニスのヴェニーニの協力がなくては生まれ得なかつた。

ヴェニーニは1925年に創立され、以来、伝統工芸であるムラノ・グラスに、抽象的な形、強烈な色彩を持ち込んだ装飾性の高い作品で知られる。発表された当時はアヴァンギャルドの代表格として、また、70年代にはどこの家庭でも模倣された作品が見られるほどのブームを作った。この20年ほどはガラス工芸自体がキックチューな存在へと押しやられていたが、93年から始まったヴェニーニとバブレッドの共作は、ガラス工芸に新たなモードを作りだした。最初に制作したオブジェ、照明器具は国際的な評価を得、バブレッドは翌94年、イギリスのウォーターフォード・ウェッジウッド、ウォーターフォード・クリスタルと共に、シャネルのためのガラス製品を手掛けることとなった。

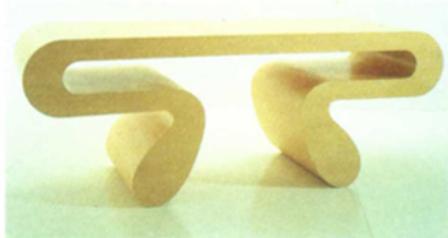
「それぞれの素材には、固有の良さ、使い方があり、特にこれが一番良い、というのはありません。しかし、新しい素材は常に制作の刺激になっていることは事実で、ガラス素材はここ数年間のモチーフになっている

のです。ガラスは手作業で、人間的な場での職人作業であるという点が気に入っています。ガラス製品の制作方法は一定ではなく、さまざまな手法を持ち込むことができる不思議な素材です。遊びの感覚に富み、その魅力は大きい。

プロダクト一つ一つの作品にそれぞれ独特の過程があるので、私は何をどういう風に作っているかという説明はできません。“制作過程”というのは、ある特定の時間を割いて、一つのものをつくる、というのではなく、永遠に継続していくものだと思っています。ガラスの流動性は、私のこうした考え、美意識とうまく呼応しているのです。」

彼に、ダイナミックな作品がいかにして生まれるのか、その影響はどこから来るのかとたずねると、こんな答えが返ってきた。

「影響力やその源を決定しようとする試み自体、危険





BUBALIX TABLE LAMP



ミラノのアトリエ+ギャラリー空間



PRIMITIVE